

ギリシャ経済概況(2021年6月号)

1 経済動向

・1日、若いプロフェッショナルズのお陰で、新たな企業エコシステムが生まれていると、アメリカ・ギリシャ商工会議所のスピトゥニ阿斯会頭は、第1回テッサロニキ未来思考対話ハイブリッド会議で述べた。

・2日にギリシャで開催されたハイブリッド会議「Thessaloniki Future Thinking Dialogues」に出席したファイザー・デジタル社のジェフ・ハミルトン CEO は、2021年末までにテッサロニキにあるデータ・センターの職員数が300名にまで増加する見込みであると述べ、今後も事業の拡大を進める意向であることを明らかにした。

・3日、ミツオタキス首相はグリファダにおいて、アッティッカのリヴィエラと呼ばれるピレウスからスニオ岬までの70kmにおよぶ海岸線を開発する計画について述べた。同計画には、大規模なヘリコン前国際空港跡地開発計画も含まれている。

・3日、ディマス開発・投資副大臣は、ギリシャ・米間の更新された科学技術合意の批准を歓迎した。

・3日、ヨルギアディス開発投資大臣は、マイクロソフト・データ・センター・ハブは計画通りに進んでおり、ファイザーはテッサロニキに設立されたデジタルセンターでエンジニアの雇用者数を増加する予定だと述べた。

・3日、パトラで開催された第2回リージョナル成長会議で、スタイクラス財務大臣は、「政府は、真剣に観察しながら、順序だてて、全ての分野および全てのレベルで未曾有の経済危機に対処した。政府は、2020年から2021年にかけて、400億ユーロ近くをかけて、保健衛生、家計および企業を支援した。」と述べた。

・8日 “成長のビジョン、象徴的投資”と名付けられたタイトルの第5回ギリシャードイツ経済フォーラムが、両政府から9人の高官が参加して開催された。

・8日、スクレカス環境大臣は、今年後半に全部で700メガワットの貯蔵能力をもった再生可能エネルギー用電池を建設する案内を投資家に行った。同大臣は、デジタル会議で話した際、「ギリシャは、秋に2億ユーロ相当の予算で電量貯蔵バッテリーの入札を開始する。」と述べた。

・17日のユーログループ会合に先立ち、スタイクラス財務大臣はルクセンブルグでレグリング ESM 総裁と面会し、ESM の声明は“とても建設的な会合”であったと述べた。

・17日、欧州委員会は、国の補助金に関する EU 規制に基づいて、北東ギリシャのアレクサンドルポリ港での新たな液化天然ガス施設の建設に対し、1億6670万ユーロをギリシャ政府が支援することを承認した。同委員会は、「本計画は、不当に競争を歪めることなしに、ギリシャと南東欧一般の安全保障およびエネルギー供給の多角化に貢献する予定である。」と述べた。

・17日、ユーログループが開催され、ギリシャ・ポスト支援プログラム第10次レビューの完了に伴い、欧州中銀が保有するギリシャ国債からの利益の返還が承認された。返還額は約7億4800万ユーロとなる見込み。これを受けてスタイクラス財務大臣は、「パンデミックとその経済的影響に取り組むため、政府の迅速かつ効果的な対応が改めて認められた。」等と述べた。

・22日、ラムダ開発は、戦略的パートナーとして小売業IKEAをギリシャで展開しているファリス SA社とエリニコ旧国際空港跡地での最初の大型施設に関する契約を締結した。総投資額は5500万ユーロと見積もられている。

・22日、ギリシャ統計庁は、昨2020年、ギリシャ国民の28.9%、3,043,869人が貧困リスクや社会的疎外に直面していたと発表した。2019年比較で1.1%減少した

とのこと。貧困率は18-34歳のグループで、最大で31.9%、その内ギリシャ国民が30.3%、ギリシャ在住の外国人が54%だった。

・22日、デルフィエコノミック・フォーラムと在北マケドニア・ギリシャ産業連盟が主催している、第1回スコピエ経済フォーラムで、スミルリス外務省国際経済担当次官は、「ギリシャは投資増大、社会のデジタル化を通じて、バルカン地域の国々の協力と発展の触媒になりたい。」と述べた。

・23日、ギリシャ統計庁は、ギリシャ商船の4月の数が、1839隻で、前年同月比0.9ポイント減少したと発表した。2019年から2020年の全月比較では1.0ポイント減少した。統計庁の月報ではギリシャ商船の全積載重量トンが40,307,202dwtで、前年4月比較で3.4ポイント下落した。

・23日、テッサロニキ港湾庁は株主年次総会を開催し、経営陣の案である株主への配当1.42ユーロの支払いを承認した。テッサロニキ港湾庁は前年の1.17ユーロの配当から大幅増加し、2020年の利益の75%を分配する。

・24日、ギリシャ電力公社 PPC 理事長は、「今年の年末までに、PPC が2023年までに閉鎖を計画している褐炭火力発電所の発電能力全3.4ギガワットの3分の1以上を閉鎖する予定である。」と述べた。

・25日、スタイクラス財務大臣は、「深刻なパンデミックが起こった際の経済対策として、40億ユーロ以上を確保している。秋に発生する可能性がある感染の急拡大に備えて、新たなロックダウン措置に備えて、家計とビジネス支援のために45億ドル相当の支援策を準備している。支援策は一律ではなく、深刻な影響を被った人々に限るべきである。2年で政府は国庫に410億ユーロを蓄えた。我々は財源に余裕がある。2022年と23年に財政収支が均衡する。」と述べた。

・27日、保健省は、7年連続して増加させていた製薬会社による医療費（一部）負担システムであるクローバック（の額）を、7年ぶりに減少させると明らかにした。

・29日、ギリシャ産業連盟（SEV）の年次総会で、ミツォタキス首相は「ギリシャが競争的で革新的になるために必要としている新たな経済モデルを創出するために、次世代EU基金からの支援とパンデミックからの教訓を助けに飛躍的な成長をする準備が出来ている。」等と述べた。

・29日、ミティリネオスグループは、エネルギー関連子会社が、コペンハーゲン・インフラストラクチャー・パートナーズ（CIP）と、ギリシャ沿岸地域の風力発電パークの展開開発のための共同会社に関する署名をしたと発表した。（CIP60%、ミティリネオスグループ40%）

2 財政

・9日、ミツォタキス首相は、ツイッターで10年国債発行を歓迎した。首相は英語で「ギリシャの回復と我々の長期的展望への別の信頼の証である。今日我々は10年債を約0.9%で発行した。国は記録的な低利子率で借用している。」と述べた。

・財務省が発表した1~5月の予算執行状況によると、1~5月の財政収支は108億28,000万ユーロの赤字（目標額97億69,000万ユーロ）、プライマリーバランスは81億67,000万ユーロの赤字（目標額71億6,900万ユーロ）となった。同時期の純歳入額は182億9,000万ユーロ、うち税収は169億2,000万ユーロ、歳出額は291億1,800万ユーロとなった。スキラカキス財務副大臣は、「5月の予算執行データでは税収が29億8,100万ユーロとなり、目標額を4,700万ユーロ（1.6%）上回った。その他のデータからも増加傾向が見られ、より早い経済回復の見込みについて楽観視して良いだろう。」とコメントした。

・ギリシャ・ポスト支援プログラム第10次レビューの報告書では、新たなギリシャの債務持続可能性について報告がなされており、2021年以降から対GDP比債務高は下降傾向となり、2023年に200%以下になることが予測されている。第10次レビューは、ギリシャの合意履行状況や改革進捗状況に肯定的な評価を下しており、ギリシャ国債から得られた利益の返還はほぼ確実と見られる。

3 輸出入

・ギリシャ統計局のデータによると、4月の貿易収支赤字は大幅に増加し、前年同月比70.7%増となった。4月の輸入額は50億1,480万ユーロ（前年同月は31億9,880万ユーロ、56.8%増）、輸出額は31億7,210万ユーロ（前年同月21億1,930万ユーロ、49.7%増）、貿易収支赤字は18億4,270万ユーロ（前年同月10億7,950万ユーロ、70.7%増）だった。

4 観光

・パンデミックの影響を受けた観光業者を支援するギリシャのプログラムが欧州委員会によって承認された。このプログラムはEU国家援助規則の暫定的枠組みの下、欧州地域開発基金によって共同出資され、総額8億ユーロの助成金が支給される。

・3日、アテネで開催されている第66回世界観光機関欧州委員会会議で、ミツオタキス首相はスピーチにおいて、「ギリシャで我々の主要な関心事項は、観光が再開された時に如何なる雇用も失われないことだ。観光支援に的を絞った一連の政策により、この目標を達成できると信じている。」と述べた。

・22日、ギリシャ中央銀行が発表したデータによると、4月の観光による収入はわずか4300万ユーロとなった。前年同月の1400万ユーロと比べると211%の増加となったが、2019年同月の観光による収入は5億4360万ユーロだった。4月の観光客数は10万7000人で前年同月比185.6%増、平均消費額も8.9%増となった。また、1月から4月の観光による収入は1億2600万ユーロで前年同期比79.3%減、同時期の観光客数は37万8000人で前年同期比79.7%減となった。

・23日、ミツオタキス首相は、ギリシャ観光連盟（SETE）の一般年次総会で、「政府は新型コロナウイルスの影響前に、“ギリシャのブランドの再考努力”を開始し、2022年に“我々が出発した地点をとり戻す”。観光は全ての経験を遙かに上回るものがあり、ギリシャは唯一の比較優位を観光に持っている。SETEはアグロフードを観光業に取り入れなければならない。我々は大規模観光業の重要性を見過ごしてはいない。しかし発展はギリシャが年数をかけ提供できる唯一の経験からくるものである。そして観光業と環境保護は不可分のものである。」等と述べた。

5 経済指標

(1) 消費者物価指数

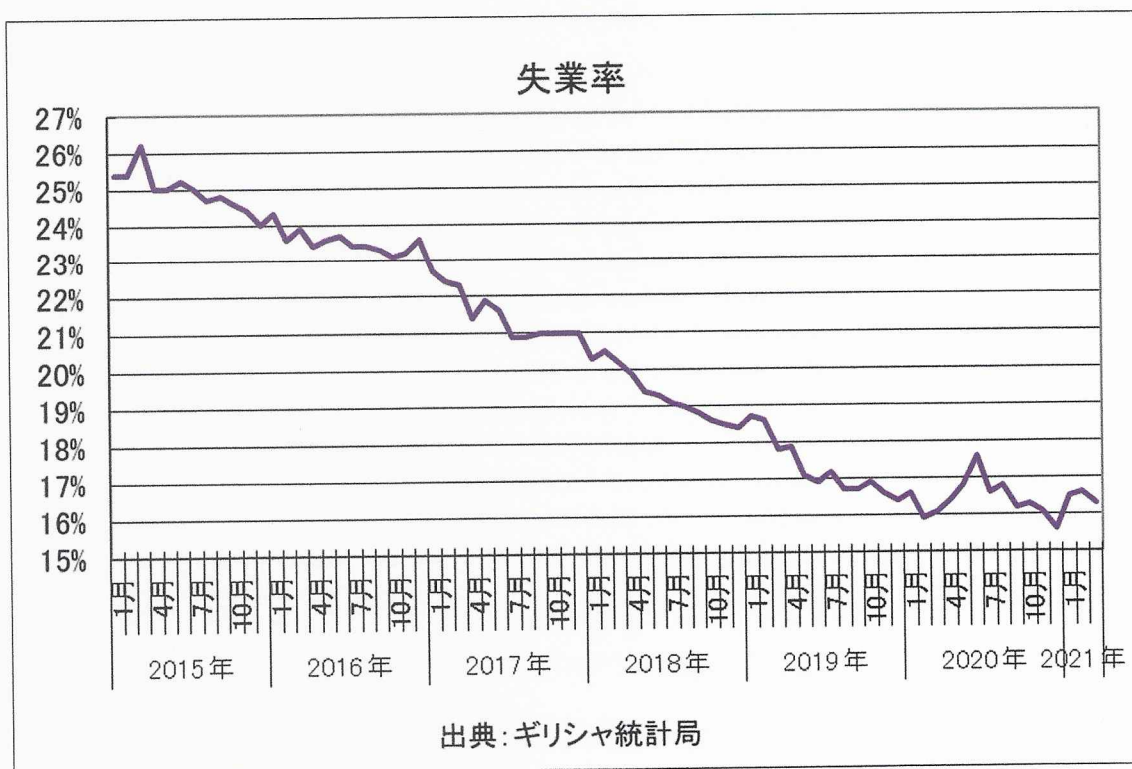
ギリシャ統計局の6月10日付の発表によると、5月の消費者物価指数は前年同月比0.1%増となった。



(2) 失業率

ギリシャ統計局の6月11日付の発表によると、3月の失業率は16.3%となり、前月から0.3%減少した。

※ギリシャ経済概況(2021年5月号)公表後、2020年以降の失業率はギリシャ統計局により修正されており、本号では当該修正後の数字を使用した。



(3) GDP

ギリシャ統計局の6月4日付の発表によると、2021年第1四半期(1~3月)の実質 GDP 成長率は前年同期比マイナス2.3%となった。



(了)